

株式会社 交通建設
<https://www.kotsukensetsu.jp>



株式会社 交通建設

会社案内

鉄道のさらなる安全、技術、
快適性を追求して—。
守り、支え、進化を続ける。

代表取締役社長 森 明

日本初の鉄道開通から約150年。鉄道は大きく発展し、交通・輸送の手段として我が国に無くてはならないものになりました。また、過密ダイヤでありながらいつ何時も安全で正確である日本の鉄道輸送は、「世界一」と讃えられています。

当社は創立以来、首都圏における線路や構造物の建設・保守に対する施工管理を通じて日本の鉄道輸送を縁の下から支えてきました。国鉄・JRの繁栄とともに培ってきた軌道工事、土木工事の経験や専門知識を礎に、安全対策、技術開発を強化して鉄道保守のスペシャリスト集団として躍進し続けています。

現代社会は目まぐるしく変化し、日々進歩しています。鉄道においてもさらなる正確さやスピード、快適性が求められ安全面、技術面でのレベルアップが進んでいます。時代のニーズに応えるため、当社もさらなる高みを目指して参ります。

私たちの仕事は、鉄道の安全・安定輸送を支え、人々の夢や希望を明日へと運ぶことを担っています。

社員一人ひとりが人と社会、未来に繋がる仕事に責任を持ち、これからも常に安全を最優先しながら快適な社会づくりに貢献して参ります。





平稳無事を今も



当社は昭和25年の設立から70年以上にわたって、日本の鉄道輸送の発展に寄与してきました。東日本旅客鉄道株式会社のパートナー会社として、首都圏に特化した地域密着の鉄道工事・保守を通して実績と信頼を積み上げてきました。私たちは、鉄道工事の施工管理をする監督として、日々変わらぬ“当たり前”である、「安全」「正確」「安定」を支え、利用する全ての人の暮らしの平穏を守り続けます。社会と日本の大動脈を支える使命を、この胸に一。

軌道



大動脈“鉄の道”を守り続ける

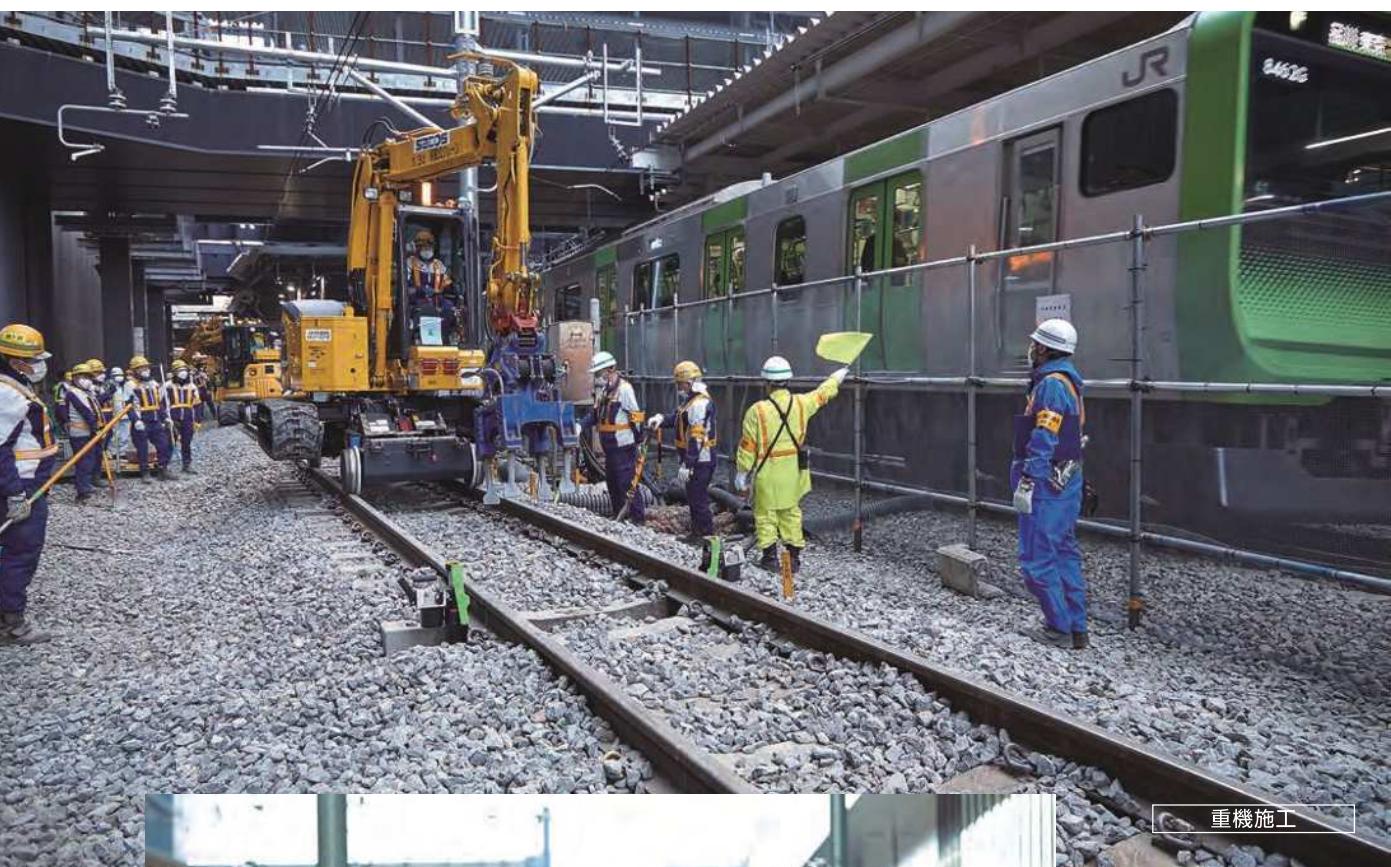
どこまでも続く2本の鉄のレールは街と街を繋ぎ、大切な命や夢、希望を運んでいます。軌道部門は、鉄道が「最も安全で快適な道」としてたくさんの人に選ばれるよう、線路の保守・改良、新線の建設などに関するさまざまな工事を担っています。それまさに、日本の大動脈を守り続ける仕事です。

軌道部門では、列車の通過に伴い劣化するレールやマクラギを交換します。

現場責任者の指示により、複数の作業員が力を合わせて作業を行い、作業終了時にはわずかなズレも見逃さないよう全神経を集中させて「線路の仕上がり状態」を確認しています。



軌道工事の施工管理



プロジェクト工事



作業計画は、現場の条件・状況にあわせて事前に緻密に練り上げられます。計画をもとに、安全・確実に保守・改良作業を完了させます。

保守工事

工事前の点呼では施工管理者として協力会社に対し工事説明や注意事項を指示します。

作業時間の説明、作業員へ役割の指示を行うほか、作業員から危険のポイントを発言させることで全員の危機管理意識を高めます。



お客様が快適に目的地へ到着できるよう、数ミリのズレも許されない精度でつくられた線路が安全輸送を実現させます。

土木

誰もが快適に利用できる「鉄道環境」を整える

駅や鉄道を利用する全てのお客様のために、安全で快適な「鉄道環境」を整えるのが土木部門の役割です。

駅のバリアフリー化やホームドアの設置、ホームの改良、沿線の基盤整備、高架橋など構造物の防災・耐震補強、線路の下にケーブルを埋設するハンドホールなど、駅や沿線の鉄道環境に合わせたさまざまな土木工事を手掛けています。

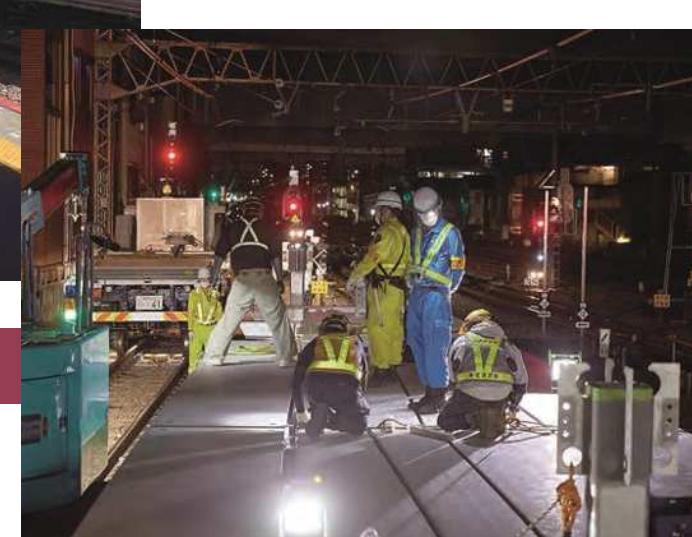
中でも重要な工事の1つ「のり面保護工」はのり面の風化や降雨による浸食などを防止することを目的に行われる工事です。鉄道沿線におけるのり面を強化することで集中豪雨等による土砂の流出を防ぎ鉄道の安全・安定輸送を支えています。

土木工事の施工管理



乗降場改良工事

お客様が快適に駅や列車をご利用いただくために、ホームドアの設置やホーム面の段差・傾斜の解消、排水といの交換などに取組んでいます。



災害の発生を未然に防止するため、過去の降雨履歴や災害事例を基にして、のり面工(吹き付け工)、土砂止め覆い工、土砂止柵などの土木工事を行っています。

降雨防災強化対策工事



橋梁工事

跨線橋通路設置の際に線路上に掛かる橋桁部分の新設工事を行っています。

耐震工事



機械

大型機械が線路の保守作業に新たな時代を切り拓く

列車が通過するたびに線路は沈下していきます。列車の走行中の振動を最小限に抑えて快適な乗り心地を実現するため、大型機械による線路のゆがみを直す工事(軌道整備)を行っているのが機械部門です。

特殊な大型機械を操るのは、訓練を重ねて腕を磨いたオペレーターです。その卓越した操作技術と機械に搭載された最新のコンピューターで日々の列車運行を支えています。

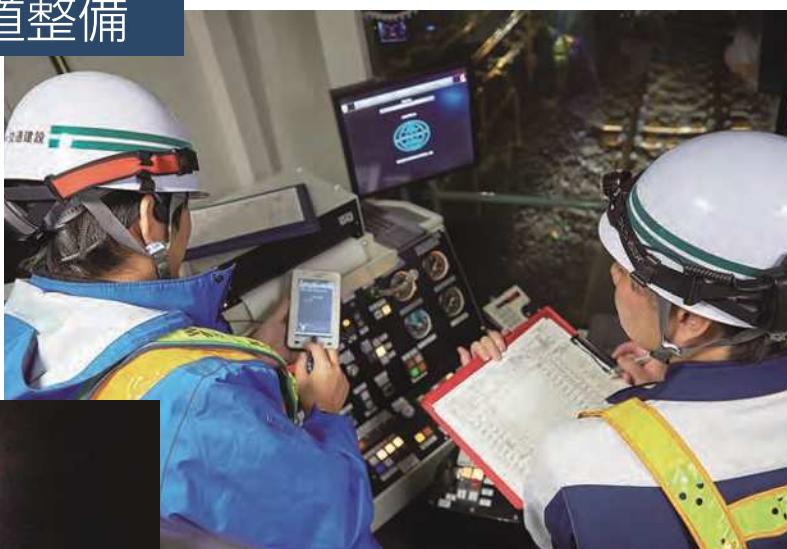
大型機械の導入は、作業効率の飛躍的な向上をもたらすとともに、作業従事者の安全性を高める面でも効果を上げています。万全な安全管理体制を確保しながら、線路の新設・保守作業を遅延なくミスなく完遂する。このごく「当たり前のこと」に、社員一人ひとりが真摯に取り組むことが、一番の目標です。



大型機械の点検整備

大型機械による軌道整備

マルチブルタイタンバ(MTT)やバラストレギュレータ(BR)などを駆使して、慎重に作業を進めています。



日中点検整備で機械の
安全性を確認します。
機械の動作確認は人が
目視で行います。



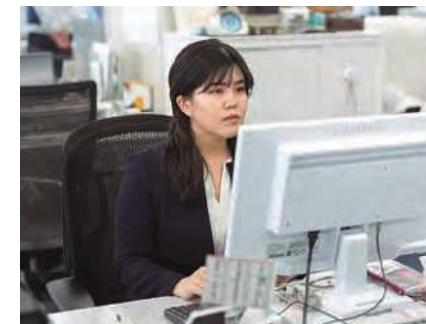


[業務紹介]

総務・企画

現場作業を円滑に、社員の働きやすい環境を支える。

鉄道工事の施工管理者として働く社員たちを、様々な角度からサポートする総務・企画部門。その業務範囲は広く、総務・経理では全社員のあらゆる面にオールラウンドな気配りが必要とされ、企画・人事では取引先または学校関係者とのやり取りなど、対外的な会社の顔ともいえる役割を果たしています。

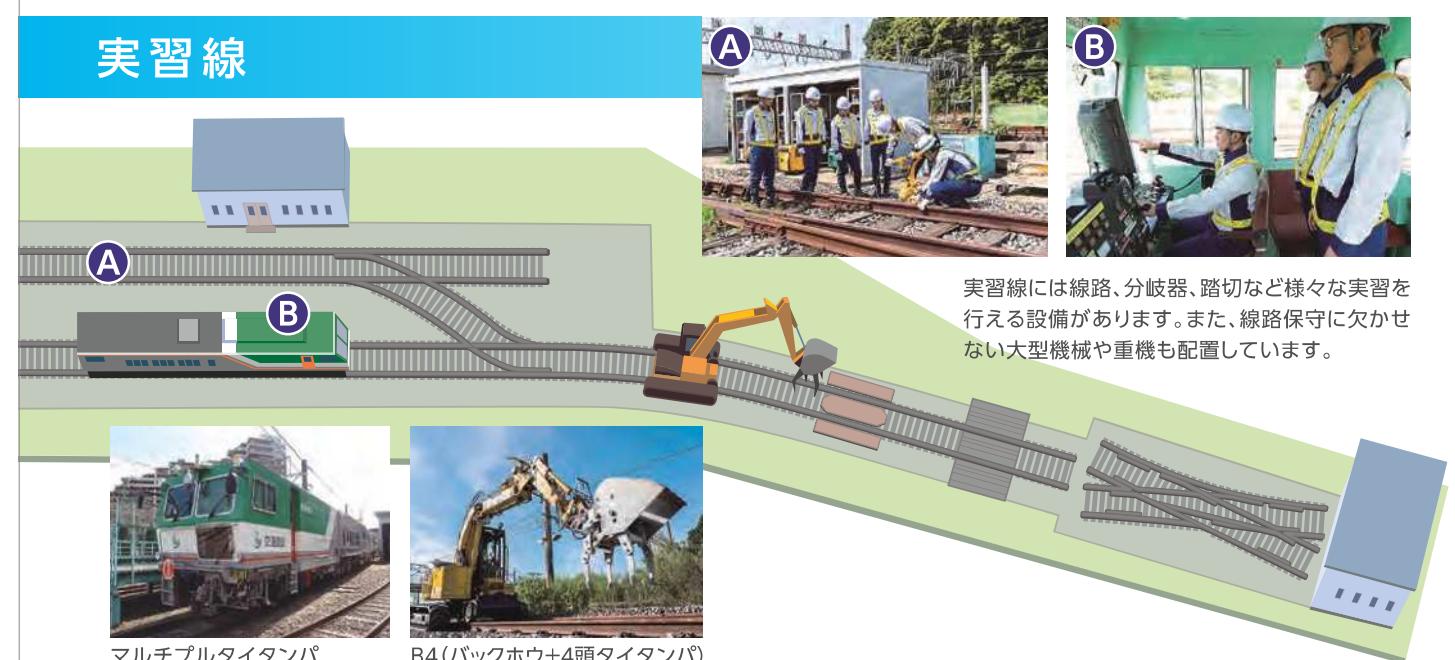


研修センター

社員が社会人として、鉄道のメンテナンスのプロとして、「技術力」と「人間力」を身に付ける



実習線



実習線には線路、分岐器、踏切など様々な実習を行える設備があります。また、線路保守に欠かせない大型機械や重機も配置しています。

経営方針

存在意義

平穏な日々と安心を支える存在であり続ける
未来を創造し人と技術を育てる

「TEAM交通建設」のブランド力

(企業価値、企業イメージ、安全・安心、優位性)を二層強化して、持続的な成長を追求する

- 提供価値の向上
- 組織力の強化 (GAP-DOC)
- 社員と会社の一体感を深める

企業価値

- 会社のPRを促進する行事への参画
- 地域活動への支援
- 会社のイメージ向上に向けた情報発信

企業
イメージ

TEAM
交通建設

- 独自性の強化 (各施策)
- 協力会社との協働
- 競合他社との差別化

優位性

安全
・
安心

- 鉄道輸送の安全確保
- 鉄道工事の施工完遂
- 施工品質・管理の向上

ブランド力強化に向けた具体的方針

1 6本柱への挑戦と創造

様々な環境変化に対応するため、
目指すべき姿と課題を明確化して果敢に挑み続ける

2 私たちの行動指針

社員一人ひとりが挑戦を繰り返し、
試行錯誤するなかで取組みのプロセスを通じて社員が成長する

3 私たちの行動指針を意識した仕事のサイクル(GAP-DOC)

職場内で抱える問題や弱点を洗い出し、
課題の解消に向け常日頃から意見を出し合い、議論する

※GAP-DOCとは、目指すべき姿・あるべき姿と現状の差を埋めるための仕事のサイクルを指します。把握(Grasp)→計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)

「TEAM交通建設」の定義

成果物を完成させるには、当社だけでなく協力会社と一体となって協働して問題や課題を解決していくことが必要です。
当社と協力会社が共に力を合わせ、同じ目標に向かって取組む姿勢が、「TEAM交通建設」の基本となります。

安全への取組み

「事故予防」を意識した 安全管理体制

施工計画・工事のリスク管理

- 現場に合致した施工計画
- 施工計画の組織的なリスク管理
- 保守用車・重機械のリスク管理

ルールの整理

- 関係法令 仕様書 指導文書等
- 現場実務マニュアルの整備

施工結果の振り返り

- 気づきや問題点の共有
- 次回の施工計画に反映

ルールの再指導・見直し

- 会議・災防協等でルール再指導
- 現場に不適なルールの見直し

事故予防 サイクル

協力会社と
意思疎通
従事員への
情報伝達

資格管理・ルールの教育

- 資格管理の厳正
- 自社ルールを含めた教育

実機械での実設訓練

- 実機械等を使用した実設訓練
- 作業一連の流れを経験

工事施工の管理

- 実務手順に基づく任務遂行
- 現場点呼でのリスク対策の周知
- 線路閉鎖等の確実な手続と確認

実施状況の確認

- 責任者によるリスク対策の履行確認
- 管理者・協力会社社長等による確認

事故防止の行動指針

日々の工事における重点取組み事項

責任者は常に基本動作の繰返し

1 施工前の手順・役割等の再確認

2 ルールの確実な遵守

3 作業マナーの徹底

4 声かけ・指差確認の徹底

会社概要

社名	株式会社 交通建設
設立	昭和25年2月
所在地	〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-4-1
代表者	代表取締役社長 森 明
沿革	<p>昭和19年 7月 株式会社旭工業社を創立</p> <p>昭和25年 2月 株式会社東鉄退職者潤生会が設立</p> <p>昭和30年 5月 潤生興業株式会社に商号変更</p> <p>昭和35年11月 東京都新宿区百人町2-4-1に会社移転</p> <p>平成4年 4月 株式会社旭工業社と潤生興業株式会社が合併し旭潤生工業株式会社と商号変更</p> <p>平成7年 10月 株式会社交通建設と商号変更</p>
資本金	1億1,450万円
売上高	288億円(2024年度)
従業員数	547名(2025年4月現在)
事業内容	鉄道軌道工事、一般土木工事 等
主要受注先	<p>東日本旅客鉄道株式会社 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構</p> <p>日本貨物鉄道株式会社</p>
主な株主	<p>東日本旅客鉄道株式会社 第一建設工業株式会社</p> <p>東鉄工業株式会社 株式会社三菱UFJ銀行</p> <p>交通建設社員持株会 株式会社みずほ銀行 ほか</p>
取引銀行	<p>三菱UFJ銀行 大久保支店 三井住友銀行 新宿西口支店</p> <p>高田馬場支店 りそな銀行 新都心営業部</p> <p>みずほ銀行 新宿西口支店 高田馬場支店</p>

営業エリア

支店はそれぞれのエリアを熟知しており、各路線のメンテナンスなどを24時間体制でバックアップし、鉄道の安全の確保に努めています。当社がカバーするのは、首都圏を中心とした関東一円のエリアです。長年にわたって培ってきた地域密着型のネットワークを生かし、さらなる鉄道網の整備強化と各地域の情報把握に取り組んで参ります。

本店	〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-4-1
研修センター	〒285-0811 千葉県佐倉市表町 1-9-3
機械化推進センター	〒182-0016 東京都調布市佐須町1-39-1
東京支店	〒114-0002 東京都北区王子 2-1-8
神奈川支店	〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田 3-24-5
府中支店	〒183-0027 東京都府中市本町 1-7
栃木支店	〒325-0054 栃木県那須塩原市新朝日 1-5
高崎支店	〒370-0843 群馬県高崎市双葉町 4-6
千葉支店	〒260-0017 千葉県千葉市中央区要町 1-29 JR千葉現業ビル2階

組織図

